

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年3月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103904
法人名	有限会社 ドリーム・ミソノ
事業所名	グループホーム紫原
所在地	鹿児島県鹿児島市紫原4丁目34-31 (電話) 099-250-2643
自己評価作成日	令和3年2月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・高台にあり春になると道路沿いの桜や近くの公園の桜がとてもきれいで、コロナ禍になる以前までは、毎年花見見物へ入居者様をお連れしております。

・近所に公園や学校、医療機関があり、大きな道路から少し入ったところにある為、とても静かで恵まれた環境に作られたホームです。

・学校の職場体験を受け入れたり地域の文化祭・夏祭り・運動会の見学を行うなど地域との交流を行っております。(現在はコロナ禍の為、中止しております)

・入居者様には出来るだけ入居前と変わらぬ生活を送って頂きたい為、ご自宅で使用していた家具などをお持ち頂く事をお勧めしております。

・入居者様が日々楽しく有意義に暮らせるように努めております。

・施設内は広々とした空間があり、開放感があります。

・職員は介護福祉士の有資格者が多く、月に1回の内部研修や外部研修にも力を入れ常に自己研鑽に勤めております。

・災害時の避難場所も近くにあり、避難訓練を定期的に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは紫原の高台にあり、公園や多くの商店や住宅、小・中学校・スーパーや放送局、医療機関等のある市街地に位置している。感染症予防で制約を受けているが、地域との交流を大切に思い、自治会にも加入して相互に情報を発信している。感染症予防で現状は停止しているが、夏祭りや地区の文化祭、幼稚園の運動会への参加、地域住民にも協力を得ている避難訓練、ボランティアや実習生の受入れ、認知症カフェでの幼稚園児との交流など活動は幅広い。

管理者や職員は、利用者や家族の思いや意見の把握に努め信頼関係づくりを大切にしている。日々の申し送りや業務日誌等で情報を共有し、各種ミーティングやケアカンファレンス等で話し合い、ケアに具体的に反映している。感染症予防のため制約を受けているものもあるが、家族からも来所時や運営推進会議、ホームの行事などで意見をもらい、職員と家族で利用者のより良い暮らしの実現を図っている。

管理者は職員に対して、声かけも工夫しながら日常的に話しやすい雰囲気作りに努め、日頃から職員の個別相談にも対応しながら密にコミュニケーションを図っている。職員同士の連携も良好で、自主的な避難訓練やレクリエーションの工夫、感染症予防のためのマニュアルの充実なども含めた話し合いも活発に行い、利用者の気持ちに十分配慮しながら業務やサービス内容の改善、職員育成に具体的につなげている。また、ケアプランや支援経過記録、介護日誌、業務日誌などの各種の記録は、丁寧に詳細に記録され日々のケアに活かされている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事務所やホールなど目につく場所にあり、常に意識し共通認識を深めている。	理念に沿って年間目標も設定し、利用者が地域の中で日々を笑顔で楽しく有意義に暮らせるように支援している。理念は事務所やホールへの掲示でいつでも確認でき、日常のケアや毎月のミーティング等で振り返りながら意義の理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園の運動会や中学生の職場体験や夏祭りの見学に出かけて地域の人と触れ合っている。回覧板で地域の情報を共有している。	自治会に加入しており、これまでは夏祭りや校区の文化祭、幼稚園の運動会等へ参加していたが今は感染症予防で実施できていない。ボランティアや実習生の受入れ、認知症カフェでの幼稚園児とのふれあいも見合わせている。職員が工夫して利用者と共に日常の家事や趣味の手伝い、レクリエーションを行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	施設見学や相談に来られた際に気軽に手にとりやすい所に、わかりやすい資料を設置している。また、運営推進会議時に、専門の方々よりお話をお願いしている時もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を実施し入居者様の状況やサービスの実際、外部評価の結果報告を行い、意見をもらいサービス向上に活かしている。また、内部研修の発表報告も行っている。	これまで会議は、利用者や家族・民生委員・地域包括センターの職員、時には歯科医や薬剤師の参加も得て開いていたが、感染症予防で現状は職員のみで実施している。利用者の現況やヒヤリハット、感染症対応等に関する話し合いが行われ、議事録は従来通り丁寧に作成されて参加できない家族も含めて委員にも送付してより良い支援になるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政連絡事項は電話や市役所に足を運び迅速に対応している。地域包括の職員さんには運営推進会議に参加して頂いたり、紫原行事予定表にて事業所の近況報告をしている。	介護相談員の受入れを行い、市担当者とは訪問や電話で入退所や認定更新の手続等の相談に助言・対応してもらいサービス向上に取り組んでいる。市主催のインターネット上での研修会や感染症予防で中断しているがグループホーム協議会にも参加して意見や情報の交換も行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を実施し、理解を深めている。玄関の施錠は基本的に夜間のみとしている。	身体拘束廃止委員会は2か月に1回実施され、言葉による行動制限を始めとする身体拘束や高齢者虐待、権利擁護に関する勉強会、毎月のミーティングやケアカンファレンスでの話し合いで日々のケアを振り返り、職員の理解を深めて利用者の尊厳やプライバシー保護などを大切に適切な言葉かけや対応に努めている。居室や玄関等の施錠は原則として行わず、鈴やセンサーも活用しながら利用者の状態や行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待について研修を行い、入居者様の尊厳を損なわないケアに心がけ、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて人権擁護委員会の方の講演に参加していたが、今年度は内部研修にて理解を深めている。必要時は、その都度、関係者と話し合い活用できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、一語一句をわかりやすく説明を行っている。理解され納得できたかを確認し、契約や解約の署名・捺印を頂いている。報酬改定などあった場合は、文書でお知らせして了承を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、あまり活用はされていない。施設の相談担当者、解決担当者、外部に定めた第三者委員の連絡先を重要事項説明書に明記して、説明並びに玄関に掲示している。	利用者や家族との信頼関係づくりを大切にして、利用者の思いや意見は日々の暮らしの中で把握に努め、家族とはアンケートのほか、現状感染症予防で対話の制限も多いが、従来は話しやすい環境作りに努め、運営推進会議や来訪時の対話、行事や家族会等で把握に努めている。申し送りや業務日誌等で職員が共有、必要な対応は申し送りや毎月のミーティング等で話し合い、本人や家族にも報告してサービスへの具体的反映に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中やミーティング時に意見や提案を聞いており、その都度、解決に向けて取り組んでいる。	管理者は日頃から気軽に話せる雰囲気づくりに努め、毎月のミーティングやカンファレンス、日常の申し送りやケア時の対話を通じて意見や提案を聞き取っている。計画に沿った研修も職員が交代で資料作成することで育成にも努め、日々のより良い支援や働きやすい職場環境作りに職員と共に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得による手当の支給や実績による評価をして頂く等、向上心を持って働くことができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間計画を立てて職員が持ち回りで様々な研修内容の資料を準備し勉強会を行っている。通常であれば、外部研修も案内を回覧したり参加できるように進めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会の研修に参加したり、その他の研修などに参加する事を推進し情報交換、交流の場を広く持てるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用開始する段階にて、不安な事や要望をお聞きし説明を行っている。ご本人様の初回面接時は話しやすい、溶け込みやすい雰囲気大切に出来る様に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始する段階で、ご家族の関係を確認し、面会や電話連絡の際にコミュニケーションをとり良好な関係作りが出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始の段階で、ご本人と御家族が必要とする支援をお聞きし確認したうえで、利用可能なサービスをその都度、説明させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来る事を活かせるようにそれぞれの状態に合わせて役割を持てるように支援する事で、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族に近況をお伝えするが、ご家族も面会時や外出時に状態の変化に気づいた時は、職員にお伝えして頂くようにお話ししている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの深い物や大切にされている物を居室に置いている方もいらっしゃる。友人・知人の訪問はコロナの影響で難しいですが、馴染みの関係の継続に努めている。	従来より家族や友人・知人の訪問は多かったが、現状は感染症予防のためガラス越しの面会となっている。本人が希望する商店や美容室・墓参り等の支援も難しく、電話や手紙の取り次ぎのほか、ちぎり絵や貼り絵などの趣味、できる範囲の家事などの支援や職員が工夫するレクリエーションを実施して利用者の楽しみにつなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が会話されたり、1階と2階、コロナの関係で、別々ではありますが、誕生会やイベントに参加して頂けるよう、支援させて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、その後のご本人の様子をご家族に電話などでお聞きし、場合によっては相談にのったり必要に応じてアドバイスを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に本人様のお話しを聞いたり様子を観察してニーズを把握するように努めている。困難な場合は、表情や動作から読み取ったり、ご家族様から聞いたりと把握に努めている。	自分の思いを伝えられる方ばかりではないが、職員は日々の暮らしや家族の情報から思いや意向の把握に努めている。その人らしく暮らせるように、個々の生活リズムを大切にして現状は外出対応は難しいが、趣味や家事、レクリエーション、食事の希望などに柔軟に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様よりこれまでの生活内容をお聞きし、本人のペースに合わせた生活が送れるように支援している。また、今まで使い慣れた家具や個人の思い入れのあるもの等を持って来られている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、関わり合いの中から出来る事の現状を理解し、維持・向上出来るよう努めている。個別の記録・バイタルチェックを行い、体調の悪い時はその度にバイタルチェックを行い、医師へ報告している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族様の意向、職員や必要な関係者からの意見をお聞きし、カンファレンス時に意見交換を行い、介護計画に反映されるよう努めている。	介護計画は利用者本人や家族から意向や希望を聞き取り、職員の意見や気づきのほか、主治医や看護師など関係者からの意見も取り入れて利用者本位のものを作成している。支援の経過は介護日誌や業務日誌、バイタルチェック表に具体的に記述し、定期的なモニタリングやカンファレンスで様々な変化に対応した支援方法を話し合っ計画の見直しや修正を柔軟に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づき等を個人別に記録し、特記事項などは毎日朝・夕の申し送り時に情報を共有し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各入居者様のニーズやご家族様の状況などに合わせて柔軟な援助ができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ現況の為、制限はあるが、通常は、運営推進会議の開催や地域の行事、消防署の避難訓練や救命救急講習会実施にて安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の希望に合わせたかかりつけ医と連携を図り適切な医療を受けられるよう支援している。状態・症状に合わせご家族に報告・相談し専門医を受診して頂いている。	一人ひとりの利用前の受診状況は十分把握し、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を適切に支援している。利用者それぞれのかかりつけ医並びに家族と話し合いや情報交換も十分になされ、訪問看護師及びかかりつけ医の看護師とも連携して健康管理に努め、緊急時にも適切な医療を受けられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で気づく少しの状態変化は母体の病院の外来看護師に伝えて適切な受診が受けられるように連携を図っている。訪問看護師などを利用されている方は訪問看護師にその都度状態をお伝えし連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、サマリーを提供したり、立ち会って情報提供を行っている。入院中は定期的に面会を行い、ご家族様や看護師・相談員と情報交換を行っている。また、母体の病院と連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態によってご家族様・主治医・職員間で話し合いを行い、ご家族様が納得のいくよう説明をしっかりと行いながら支援を行っている。	重度化や終末期のケアについては、利用開始時に指針を基に本人や家族に説明するとともに、様々な変化の都度、家族が十分納得できるように、職員や医師、看護師らと交えて繰り返し話し合い、その意向を可能な限り大切にしている。看取りを含めて病院や他施設への移動など、適切な支援になるように努めている。職員の不安軽減やスキルアップにつながるよう研修の充実にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度の救急蘇生法の講習や事故発生時の対応については毎月の研修等で勉強会を行いスムーズに行えるようマニュアルを作成し緊急時に備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、消防署に依頼し夜間と昼間の火災避難訓練と地震の避難訓練を行っている。また、近所へも事前に連絡し協力を求めている。水や防災グッズ、担架をわかりやすい場所に設置しており、また、火災通報装置スプリンクラーも設置している。</p>	<p>消防署の協力を得て避難訓練を1回は実施できたが、もう1回は感染症予防のため職員中心で自主訓練を実施し、訓練の振り返りを詳細な報告書を作成して消防署への報告も行っている。地域住民への協力のお願いや救命講習や研修の実施、スプリンクラーや自動通報装置の設置・点検、食料や飲料水の備蓄、ラジオやヘルメット等の防災用品の備えも問題はない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として一人ひとり尊重した言葉遣いで接している。トイレ利用時には、ご本人のみ聞こえるように、声量に気をつけている。	入浴や排泄、食事の支援などの日常のケアでは、個々の状況に応じた言葉遣いや声かけを工夫して利用者個々の不安や羞恥心にも配慮し、生活ペースを尊重した対応を心掛けている。関連する研修も実施し、きめ細かな観察や個人記録の取り扱いにも十分配慮して、利用者の人格や感性を大切にしたい支援になるよう努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いくつもの言葉をあげて、ご本人が決めやすいように、声かけをしている。いつでも話しやすい様に日頃の会話を怠らないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に応じては、居室で過ごして頂いたり、読書、テレビ、会話など個々にあった生活をして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	状況に応じ（本人の体調、コロナ禍の中注意して）訪問散髪も行っている。ブラシを個々に用意し、髪留めを使いおしゃれを楽しんでいらっしやる方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むき、台拭き、お盆拭きなど職員と一緒にしている。季節の食材は調理前に見て感じて頂くようにしている。	旬の食材を活用して利用者の好みも献立に反映させ、とろみやきざみ食等の工夫を行っている。食卓の準備・後片づけ等利用者のできることも一緒に行っている。感染症予防で外食など実施できないこともあるが、季節の行事食や誕生会等のケーキ、手作りヨーグルト、行事の際の弁当など計画して利用者の楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分摂取量を記録し把握に努めている。摂取量が少ない方に対しては言葉がけを行ったり、ご本人の好きな飲料水を用意したり、状態によっては医師やご家族と連携を図りながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に口腔ケアを必ず行っている。ご自分で出来る方もさりげなく見守りを行っている。ご自分で磨けない方に関しては声かけし職員が実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のサイクルを把握し職員間にて共有し声かけや誘導を行っている。訴えがない方は表情やしぐさを察し対応している。	家族の要望にも配慮し、利用者の見守りや排泄チェック表を活用して個々のパターンを把握し、声かけしながら早めにさりげなくトイレに誘導するなど羞恥心・不安軽減に努めている。排泄用品の選択も含めて個々に合わせた工夫をプランにも組み込み、言葉使いをはじめ本人の誇りやプライバシーを損ねないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、ラジオ体操に参加して頂いたり、水分を多く摂取して頂いている。また、15時のお茶の際、手作りヨーグルトを召し上がって頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は基本的に曜日を一人ひとり決めているが、個々の体調等状況に応じて時間や曜日の変更を行っている。	利用者の健康状態や希望にも配慮し、シャワー浴や清拭への変更を含め、週2回の入浴をゆったりと安心して楽しめるよう、声かけや誘導も工夫しながら柔軟に支援している。入浴したい日や時間帯、それに希望に沿った湯温調節とともに、入浴後の皮膚ケアや水分補給にも十分配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調によって入眠時間を調整したり休息を促している。また、居室の室温・明るさ等の調整を行ない、できるだけ安眠して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬準備は2名の職員で必ずチェック表に記入している。服薬前は、薬袋の名前・日付を確認して頂いている。また、薬の管理指導は担当薬局の薬剤師に指導頂いている。薬剤師と連携を図り、情報共有を行い、服薬変更時など必要に応じて相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビを見たり、パズルや塗り絵に取り組まれたり、他の入居者の方や職員との会話を通じて、ただ笑う事だけで幸せを感じられる時間を共有する事で、少しずつ馴染の場所に感じられるよう支援している。月1回の誕生会は、ケーキを召し上がって頂いたり、季節の行事に参加して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に合わせて、敷地内での外気浴を行っている。現在はコロナ禍の為、外出やご家族と面会、直接触れ合う事はできないが、ガラス越しに電話にて交流して頂いている。	現状は感染症予防のため制約があるが、利用者の好みにも沿って天候や体調を見ながら主に敷地内の散歩や外気浴を支援している。従来は年間計画に沿って、地域の小学校の文化祭や幼稚園の運動会、近隣公園での季節の花見、買い物などを楽しんでもらっている。また、家族と一緒に買い物や墓参り、外食、一時帰宅・外泊なども支援しているが、現状はホームでガラス越しの面会による交流になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物のご希望ある時は、ご家族へ相談し、職員の方で購入するか、ご家族で購入して頂くように支援行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	必要に応じて電話をかけたり、深夜帯以外はいつでも通話の取次など対応している。ただし、緊急時はこの限りではない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の明るさ、室温・湿度に常に注意し、冷暖房の調整やカーテンの開閉を行い、入居者様が過ごしやすい環境を整えるように心がけている。また、季節に応じた飾りを入居者様と共に飾り付けを行い居心地よい空間づくりに努めている。	リビングや廊下は開放的で明るく、室温や湿度、換気調節、清潔感にも十分配慮されている。畳のスペースやソファ・長椅子などが配置され、利用者が好みの場所で過ごしやすい環境になっている。それぞれの季節にひな人形や七夕飾り、クリスマスツリーなどが飾られ、季節の花や観葉植物なども置かれている。廊下も含めた壁には職員・利用者による手作りの作品や行事の写真等も掲示されている。静かな音楽も流れており、気持ちよくくつろげる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者様の相性や心身状態・歩行状態などを考慮して机の位置や座席を調整している。また、入居者様の状態によっては職員の近くにてゆっくりとテレビ見たりおしゃべりをして過ごされている方もいらっしゃる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時にご自宅で使い慣れたものを持って来てもらい、ご本人が出来るだけ居心地よく過ごせるよう工夫している。コロナ禍以前は季節の変わり目はご家族様に衣類や布団などの衣替えや整理を依頼していた。</p>	<p>居室には持参した馴染みの小物や写真が飾られ、家庭と同じように穏やかな気持ちで過ごせるよう工夫されている。居室は明るく、ベッド・ダンス・洗面台・エアコンが設置されている。気づいたことは家族に連絡、現在は感染症予防で中断しているが季節の衣替えなどもお願いしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下やトイレ・浴室には手すりを設置し、自立歩行やつかまり立ちができるよう支援している。また、居室やトイレ・浴室の入り口には、名札などを貼りわかりやすいように工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
		○	4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない